

今日の説教のポイント<創世記4章1~16節>

①神様はなぜカインとその捧げ物に目を留められなかったのか？

「カインは土の実を主のもとに捧げ物として持って来た」、**「アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た**」。この二つの表現には、単なる「収穫物」と最上の「捧げ物」の違いが表現されています。すなわち、アベルは神様への感謝の気持ちに満ちて捧げ、カインは義務を果たすだけの思いで捧げた、そういう感じの違いが表現されているのです。神様はそれに気づかれ、動かれ、カインがどうするかを見られたのです。

②「神様に反抗し続ける不信仰」の原型、カイン

カインがしたことは、激しい怒りと顔を伏せたことでした。それで神様は言われました、「**どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか**」。このカインのことを適切にも、「神様に反抗し続ける不信仰のタイプの原型」、と表現した人がいます。神様からこれだけはっきり指摘されたのに、全く驚かず、反省せず、むしろもっと悪い方向（アベル殺害）に突き進んだからです。

③立ち帰る機会をなおも与え続けて下さる神様

「**正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない**」。反抗し続けているカインになお神様がこう語りかけられたことに私たちは驚かなければなりません。「**罪の力に負けるな**」、そう呼びかけて下さっているのですから！ 神様が怒らず、なお何度も語りかけ続けて下さるのは、カインがその時に、「**私が間違っていました**」と罪を告白して立ち帰ることを期待しておられるからです。私たちにもその機会が与えられ、今があることに感謝しましょう。

④殺人者の守り手になられる神様！

この箇所最大の驚きは、神様が、最後までしらを切ったカインをとうとう殺人者、それも兄弟殺しの殺人者として告発された後、その殺人者の命の守り手となられたということです（15節）。アベルの血を飲み込んだ土はカインの罪を叫び告発しました。しかし、神様は、私たち全ての罪人のために死んで下さったイエス・キリストの血によって、その罪人なる私たちに赦しと救いを告げ知らせて下さったのです！ 感謝！